

日本語学習における「短期集中型」の効果的なカリキュラム —短期留学生を受講生として—

植 田 均
Ueda Hitoshi

- 0.はじめに
- 1.実施概略
- 2.実施上の重要ポイント
- 3.どのようなレベルの言語使用者か？
——言語習得の段階（「CEF参照レベル」を利用して）
- 4.言語習得アンケート（自己評価チェックリスト）
- 5.達成目標を明示したカリキュラム

0.はじめに

外国人が日本語学習する上において、大学の第2外国語の場合、通常は週に2回（1回90分）ゆえに、年間60回のレッスンを受ける。これを通年科目として学ぶ。

一方、短期集中型で学ぶ方法も存在する。

以前、筆者は「1泊2日」または「3泊4日」で企業の社員を対象にこの方法で講義したことがある。1日のスケジュールは、午前9:00から午後5:00まで昼食及び1～2時間ごとの小休息を挟みながらの集中レッスンを試みた。1日に7～8時間はその学習言語に浸るのである。夜は、レッスンではないが、言語背景関連の座談会が組まれていた。これを「短期集中型」学習法と称する。この結果、たとえ「初習外国語」であっても、第2日目の夜には、皆の前で簡単な「自己紹介」が行えるようになっているのである。

筆者はこの「短期集中型」学習法の方が（長期型学習法よりも）効果的だと思えてならない。しかし、通常大学の授業において、この「短期集中型」学習法を実施するのは、教授会などで大方の賛同を得られにくい。何か良い機会を設けてこの型の優位性を証明したいと考えていた。

今回、絶好の機会を得た。それは、今夏、夏季休暇を利用して外国から日本語の集中レッスンを受講する短期留学生を迎えることになったからである。この「短期集中型」学習法を実践し、効果的かつ優位性を証明できる恰好の場を提供して戴くこととなったのである。

1.実施概略

今回、短期集中型の学習を実施する概略は以下の通りである。

- 1) 学習言語：日本語
- 2) 教授する対象：大学生1回生～4回生、大学院1回生。
- 3) 学習歴：母国で前年9月から日本語を「第2外国語」として初めて学習開始。今年の8月で学習歴満1年になる。したがって、レベルは「初級」から「中級」へ行く中間だと思われる。
- 4) 短期集中講座の期間：4週間。
- 5) 時間割：午前9:00～12:10の90分授業2コマを「日本語講座」とする。午後は、復習、自由会話、「日本事情講座」、「IT講座」のほか、各種イベントを行う。土、日曜日は、学外イベント、自由活動などを設ける。
- 6) 指導法：学習者がわざわざ来日するのであるから、コミュニケーション能力を磨く狙いは、日常生活において「役立った」と思えるように指導する。このさい、新しい試みとしてCEF参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）を利用する。¹⁾

2.実施上の重要ポイント

「短期集中型学習法」を実施するに当たり、「学習の狙い」と「具体的カリキュラムの注意事項」を重要ポイントとする。

2.1.学習（カリキュラム）の狙い

- 1) 場面型と構文型とを融合させる。
- 2) 教室内での学習済み事項を教室外、街中で実践させる。
- 3) 「読む、書く、聞く、話す」の4技能を同時並行で教授するのであるが、特に「聞く、話す」に力点を置く。
- 4) 学習効果を顕示する。

学習初日と最終日に同一内容の「読む、書く、聞く、話す」の4技能「アンケート」を実施。

- 5) 「4週間の日本滞在」「来日して驚いたこと」「自国との文化差異」などのテーマで、4週間かけて作文を作成する。これを最終的には1つの「作品」の水準にまで高める。

2.2.具体的カリキュラムの注意事項

- 1) 日本語教育の専門スタッフは4人（この他、協力スタッフが5人～8人）
- 2) 日本語講座は、基本的に当該専門家により担当する。
- 3) 1日に2回（2コマ）の授業を行い、各2回は同一教員が担当する。
- 4) 各2回の終了時に「質問票・感想文」を母語または日本語で書いてもらい、提出する。
- 5) 講座担当教員は、各2回の終了時に毎回「所見、自己点検」などの報告書を国際交流センター事務室へ提出。
- 6) 教材としての構文及び場面の大枠は示すが、補足教材、教具などは、担当者自らが工夫して作成する必要がある。

3.どのようなレベルの言語使用者か？一言語習得の段階（「CEF参照レベル」を利用して）

初習外国語で1年間学んだ学生を対象とする。すなわち、「初級の真ん中あたり」という抽象的な指標しかない。そこで、CEF参照枠を利用して、より客観的に、より普遍的に言語能力のレベルを認定しようとするのである。

一般的な言語習得のレベルはどのようになるだろうか。「言語習得の段階」は大きく分けると、初級、中級、高級の3段階の言語使用者になる。とりわけ「CEF参照枠」を用いると次の表の如くなる。

[CEF 参照レベル]²⁾

[表 1]

C 熟達した言語使用者C2	Mastery
C1	Effective Operational Proficiency
B 自立した言語使用者B2	Vantage
B1	Threshold
A 基礎段階の言語使用者A2	Waystage
A1	Breakthrough

Aが初級、Bが中級、Cが高級のレベルである。A～Cを更に各々2段階に分け、計6段階に分けている。この6段階のレベルの具体的内容は、次の「共通参照レベル：全体的な尺度」に示された[表2]～[表4]の通りである。

共通参照レベル：全体的な尺度³⁾

[表 2]

熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。 複雑な話題について明確でしっかりした構成の詳細なテキストを作ることができる。 その際、テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。

[表 3]

自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解することができる。 お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

[表 4]

基礎 段 階 の 言 語 使 用 者	A2	ごく基本的な個人情報や家族構成、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

この「共通参照レベル」を具体的な日常生活の事象にして「アンケート」という形でチェックする。この「アンケート」は、「読む、書く、聞く、話す」の4技能ごとに分けてチェックするようになっている。それが、次に示す「言語習得アンケート」（自己評価チェックリスト）と称するものである。

4. 言語習得アンケート（自己評価チェックリスト）

今回は、A1レベルの受講生を対象として「言語関係アンケート」（自己評価チェックリスト）を準備した。

[自己評価チェックリスト] ⁴⁾

レベル：A1（A1からB2を経てC2までの6段階のうち、もっとも初期のレベル）

チェックリスト記入に当たり、「注意事項」は以下の通りである。自己評価以外に他人（指導教員など）の評価も入る。なお、初級段階の受講生を考慮し、やや難解と思われる漢字にはルビを付す。

[注意事項]

[1の欄] あなたができると思うことをチェック、記録します。

[2の欄] 他の人（例：先生）にも、あなたが何ができるか評価してもらって下さい。

[3の欄] あなたがまだ出来ないけれども重要だと思う項目に印を付けて下さい。

やや厳しいめくくらいにチェックを入れるのが望ましいが、あくまでも「自己判断」に拠る。

また、先生とも相談して、チェックリストには無いけれども、あなたができることや今のレベルで言語学習に必要なことがあれば、それを各項目に入れてください。

*印を付けた項目が全体の80%以上になれば、レベルA1に到達したと言える。

[筆者は「80%以上」と設定したが、70%では不可なのか否か、判断はできにくい]

なお、レベルA1においても難解だと思われる場合は、太枠外の項目を別に設けてあるので、そちらを利用するのもよい。これを仮に「レベルA0」とする。これは、ごく入門期の段階である。しかし、第2外国語として学習する学生にとっては、「レベルA1」の各項目では少々難解に感じるかもしれない。このような場合、太枠外の所謂「レベルA0」は学習のモチベーション維持に役立つと考えられる。

「レベルA0」は、外国語学習のスタートラインに立ち、いわばウォーミングアップの段階であるが、ここで多くの学生が挫折するように思えてならない。1つの関所ではある。このあたりをうまく乗り越えれば、軌道に乗るとおもうので、教授する側にとってもこの関門に対して注意を注がねばならない。

[表5]

以下の ^{しるし} 印を使うこと。		私の 評価	先生・ 他人の 評価	私の 目標
1と2の欄 ^{らん}	3の欄			
ㄱ 普通 ^{ふつう} にできる ㄴ 簡単 ^{かんたん} にできる	! 私の目標 ^{わたし もくひょう} です !! 私にとって一番重要 ^{いちばんじゅうよう}			
印を付けた項目が全体の80%以上になったら、レベルA1に到達 ^{とうたつ} したと言える。				
読む		1	2	3
1.「奈良産業大学」が読める。				
2.カタカナで書かれた国名、都市名が読める（例：ペルー、バチカン等）。				
3.スーパーの売り場 ^{ばいばうじ} 標示が読んで分かる（例：レジ、レディス・ファッション等）。				
4.黒板の手書き文字は読んで分かる。				
5.大学キャンパスの案内板 ^{あんないばん} が読んで分かる。				
6.学内掲示板のお知らせやポスターなどの印刷物が読んで分かる。				
7.銀行や郵便局の窓口 ^{まどぐち} の標示が読んで分かる。				
8.パソコンの日本語画面 ^{がめん} が読んで分かる（例：インストール、コピー、ウェブ等）。				
9.電車やバス、地下鉄などの車内 ^{しやないこうこく} 広告が読んで分かる。				
10.宿舎 ^{しゆくしゃ} の入居規則事項 ^{にゆうききそくじこう} が充分理解できる。				
11.友達や同僚、先生が書く簡単なメッセージ （例：「食堂 ^{しよくどう} にいます」、「1時に戻ります」）が理解出来る。				
12.書かれてある「簡単な短い指示 ^{しじ} 」に従う事が出来る （例：「駅 ^{えき} から郵便局まで歩いて行きなさい」）。				
13.図書館の本棚にある本の背表紙 ^{せびょうし} を見て、必要な本を探す事が出来る。				
14.病院の問診 ^{もんしん} （診察を受ける前の質問票 ^{しんさつひょう} ）が読んで分かる。				

- 1.「ひらがな」がすべて読める。
- 2.「カタカナ」がすべて読める。
- 3.簡単な朝のあいさつが読める。
- 4.簡単な昼のあいさつが読める。
- 5.簡単な夜のあいさつが読める。
- 6.簡単な別れのあいさつが読める。
- 7.自分の名前が読める。
- 8.自分の国名が読める。

[表6]

話す	1	2	3
1. 名前、出身地、生年月日、年齢、専門など簡単な自己紹介ができる。			
2. 分からないとき「分からない」と伝えることができる。			
3. もう1度繰り返して言ってほしいとき、うまく頼むことができる。			
4. もっとゆっくり話してほしいとき、うまく頼むことができる。			
5. 相手の言うことが分からないとき、聞き返すことができる。			
6. 昨日、何を食べたか日本語で言える。			
7. 数字、数量、価格、時間をうまく使うことができる。			
8. スーパーなどで自分がほしいものがどこにあるか聞くことができる。			
9. 日常のあいさつやその後の簡単な会話ができる。			
10. 自分の家から日本のここまでのどのように来たのかを説明できる。			
11. 自分の家族、家族構成、勉強、国の特徴について質問に答えられる。			
12. 自分の住んでいる所をうまく説明することができる。			
13. 授業で先生に質問ができる。			
14. 日時の表現（例：「来週」「先週の土曜日」「9月に」「4時に」）を使うことができる。			
15. どこに住んでいるか、近所では誰を知っているか、今何を持っているかなどの質問に答えることができる。			
16. スーパーや商店で、自分の買い物の希望や条件などを詳しく説明できる。			
17. 電車やスーパーなどで忘れ物をしたとき、自分の持ち物などを詳しく駅員や係員に説明できる。			
18. 自分の意見や考えを日本人の知り合いに説明できる。			
19. 日本語を用いた電話で申し込み、注文、問い合わせができる。			

1. 簡単な朝のあいさつが言える。
2. 簡単な昼のあいさつが言える。
3. 簡単な夜のあいさつが言える。
4. 簡単な別れのあいさつが言える。
5. 自分の名前が言える。
6. 自分の年齢が言える。
7. 自分の職業が言える。
8. 自分がどこの国の人か言える。
9. 簡単な品物は何かを言える（例：辞書、手帳、ケータイなど）。
10. それはだれの物か言える（例：リンくん、お姉さん、私など）。

[表 7]

聞く	1	2	3
1.郵便局、銀行の窓口での説明がわかる。			
2.買い物の時、値段 ^{ねだん} を言われてすぐにわかる。			
3.他人の「自己紹介」を聞いてよくわかる。			
4.道を尋ね ^{たず} て、その答えがよくわかる。			
5.バスや電車のアナウンスがよくわかる。			
6.デパートやホテルなどの人に丁寧 ^{ていねい} に説明されてよくわかる。			
7.教室で先生の話がよくわかる。			
8.テレビドラマを聞いてよくわかる。			
9.ラジオの天気予報 ^{てんきよほう} がよくわかる。			
10.病院 ^{びょういん} で医者 ^{いしや} の指示 ^{しじ} がよくわかる。			
11.大学の教員、事務職員 ^{じむしん} からの「事務連絡」がよくわかる。			
12.今回の授業で宿題 ^{しゅくだい} について説明されて、よくわかる。			
13.親しい人同士 ^{どうし} が「くだけた日本語」で話しているのを聞いてよくわかる。			

1. 他人の「簡単な朝のあいさつ」が聞いてよくわかる。
2. 他人の「簡単な昼のあいさつ」が聞いてよくわかる。
3. 他人の「簡単な夜のあいさつ」が聞いてよくわかる。
4. 他人の「簡単な別れのあいさつ」が聞いてよくわかる。
5. 他人の名前が聞いてよくわかる。
6. 他人の年齢が聞いてよくわかる。
7. 他人の職業が聞いてよくわかる。
8. 他人の国名が聞いてよくわかる。
9. 他人の「(こちらへ) 来なさい」が聞いてよくわかる。
10. 他人の「(そちらへ) 行く」が聞いてよくわかる。
11. 「日用の品物 (例：ミネラルウォーターなど)」が聞いてよくわかる。
12. 他人の「今、何時ですか？」が聞いてよくわかる。
13. 他人の「トイレはどこか？」が聞いてよくわかる。

[表 8]

書く	1	2	3
1.自分の名前がカタカナで書ける。			
2.自国の大学の名前と、ここの大学の名前を日本語の漢字とカタカナで書ける。			
3.自分の年齢、住所、職業などを必要書類などに日本語で書ける。			
4.自分の専門を日本語で書ける。			
5.簡単な自己紹介文（「趣味」なども含む）を日本語で書ける。			
6.先生に授業を休む理由をメモとして日本語で簡単に書ける。			
7.昨日食べたもの、飲んだものについて、日本語で作文できる。			
8.日本語で簡単な日記が書ける。			
9.会合、会食、パーティの簡単な案内文（例：「どこで何時に開催するかなど）が書ける。			
10.日本語で「履歴書」が書ける。			
11.授業中、日本語でメモがとれる。			
12.電話の伝言メモが日本語で書ける。			
13.お礼やあいさつの手紙（またはメール）が日本語で書ける。			

1. 「ひらがな」はすべて書ける。
2. 「カタカナ」はすべて書ける。
3. 「簡単な朝のあいさつ」が書ける。
4. 「簡単な昼のあいさつ」が書ける。
5. 「簡単な夜のあいさつ」が書ける。
6. 「簡単な別れのあいさつ」が書ける。
7. 自分の名前を漢字とカタカナで書ける。
8. 自分の国名を（漢字と）カタカナで書ける。
9. 自分の年齢を漢数字と（アラビア）数字で書ける。
10. 自分の職業を漢字とカタカナで書ける。
11. 自分の住所を漢字とカタカナで書ける。

5. 達成目標を明示したカリキュラム

このカリキュラムは、毎回「講義課題」1つを明示し、何を学ぶかを教えてくれる。

「日本語講座 初級編」カリキュラム⁵⁾

[表 9]

課	講義課題	日付／／講義担当者
	ガイダンス&アンケート	7/28 (火) 植田均
第 1 課	あいさつ・自己紹介	7/29 (水) 上野山愛弥
第 2 課	ものを指す	7/29 (水) 上野山愛弥
第 3 課	場所を聞く	7/30 (木) 田中舞
	第 1 回作文 (構想を練る)	7/30 (木) 田中舞
第 4 課	時間・曜日を言う	7/31 (金) 中川婦美子
第 5 課	何をするか聞く	7/31 (金) 中川婦美子
第 6 課	何をあげますか	8/3 (月) 田中舞
第 7 課	値段を聞く	8/3 (月) 田中舞
第 8 課	注文する	8/4 (火) 竹田治美
第 9 課	今のことを話す	8/4 (火) 竹田治美
第 10 課	許可をもらう	8/5 (水) 上野山愛弥
第 11 課	希望を言う	8/5 (水) 上野山愛弥
第 12 課	お願いする	8/6 (木) 中川婦美子
第 13 課	趣味を話す	8/6 (木) 中川婦美子
第 14 課	順番を言う	8/7 (金) 田中舞
	第 2 回作文 (第 1 回作文の書き直し)	8/7 (金) 田中舞
第 15 課	禁止を言う	8/10 (月) 上野山愛弥
第 16 課	やり方を聞く	8/10 (月) 上野山愛弥
第 17 課	予想を言う	8/11 (火) 田中舞
第 18 課	友達と話す	8/11 (火) 田中舞
第 19 課	いろんなとき	8/12 (水) 竹田治美
第 20 課	くらべて言う	8/12 (水) 竹田治美
第 21 課	これ できますか	8/17 (月) 中川婦美子
第 22 課	食事をしながら話をする	8/17 (月) 中川婦美子
第 23 課	困ったことを話す	8/18 (火) 竹田治美
第 24 課	行こうと思っています	8/18 (火) 竹田治美
第 25 課	言ったとおりにしてください [1]	8/19 (水) 上野山愛弥
〃	〃 [2]	8/19 (水) 上野山愛弥
	第 3 回作文 (1 つの「作品」として完成)	8/20 (木) 田中舞
	アンケート (第 1 回「アンケート」と同一内容)	8/20 (木) 田中舞

受講修了者には、以下の3点セットを付す。

- (1). 修了証
- (2). 作品（修了した水準を証明する）
- (3). アンケート結果（チェックは、本人、指導教員の2種類添附。これにより達成度が自己評価できる）

[ポイント]

- (1). 「作文」を3回に分けて修正、添削し、1つの完成した「作品」の水準にまで押し上げる。⁶⁾ その第1回目は自国語でもよいから、テーマや作文の内容について「構成を練る」のである。
- (2). 同一質問の「アンケート」を初日と最終日に実施する。⁷⁾ この結果、今回の研修により上達した事項が具体的に判明する。指導教員も同時にチェックする。これが、「成績書」を作成する材料になる。
最後に試験を実施し、アンケート結果と同一になるのか確認する。
- (3). 受講生に「授業に対する質問票」を毎日必ず記入してもらい、担当教員が回収のうえ、国際交流センターへ提出する。質問票の内容は[表10]の通り。
- (4). 担当教員は「授業日誌（担当教員による報告書）」を毎日必ず記入し、国際交流センターへ提出する。「授業日誌」の内容は、[表11]の通り。

そこで、例えば、この「カリキュラム」の第20課を挙げてみる。

第 20課 くらべて 言う

☆2つのものを[くらべて 聞く] [くらべて 言う] 言い方

練習会話1. 「どちらが 好き ですか」(Aが質問し、Bが「どちらか」を答える)

<例> ① A: ① ビール ② ワイン B: ワイン

⇒ A: ビールと ワインと どちらが 好きですか。

B: ワインの 方が 好きです。

1. A: ① 犬 ② 猫 B: 犬 ⇒

2. A: ① 英語 ② 数学 B: 英語 ⇒

3. A: ① 野球 ② サッカー B: サッカー ⇒

4. A: ① ジャズ ② ロック B: ロック ⇒

5. A: ① 山 ② 海 B: 海 ⇒

練習会話2. 「どちらが 大きい ですか」

<例> A: ① 北海道 ② 東京 B: 北海道

⇒ A: 北海道と 東京と どちらが 大きいですか。

B: 北海道の 方が 大きいです。

1. A: ① 奈良駅 ② 東京駅 B: 東京駅 ⇒

2. A: ① 象 ② シマウマ B: 象 ⇒

3. A: ① いるか ② 鯨 B: 鯨 ⇒

4. A: ① アメリカ ② 日本 B: アメリカ ⇒

れんしゅうかいわ

練習会話 3. 「どちらが (③) ですか」

＜例＞ A : (① 田中さん) と (② 伊藤さん) と どちらが (③ 背が高い) ですか。

B : (田中さん) です。

1. A : ① 新幹線 ② 飛行機 ③ 早い B : 飛行機 ⇒
2. A : ① インド ② 日本 ③ 人が多い B : インド ⇒
3. A : ① 洋子さん ② ひろしさん ③ 髪が長い B : ひろしさん ⇒
4. A : ① 日本語会話 ② 日本語文法 ③ むずかしい B : 日本語文法 ⇒
5. A : ① 京都タワー ② 東京タワー ③ 高い B : 東京タワー ⇒
6. A : ① お金 ② 健康 ③ 大切 B : 健康 ⇒
7. A : ① 今週 ② 来週 ③ 暇 B : 来週 ⇒

れんしゅうかいわ

練習会話 4.

＜例＞ A : (①クラス) で (②だれ) が いちばん (③背が高い) ですか。

B : (④リーさん) が いちばん (③背が高い) です。

1. A : ① スポーツ ② 何 ③ おもしろい B : ④
2. A : ① 台湾 ② どこ ③ きれい B : ④
3. A : ① 日本料理 ② 何 ③ おいしい B : ④
4. A : ① カラオケ ② だれ ③ 上手 B : ④
5. A : ① 1年 ② いつ ③ 好き B : ④

かいわれんしゅう

《会話練習》場面を 設定して 友達と話します。

A : アンリ (留学生) B : みずき (大学生)

B : アンリさんの 家族のなかで だれが いちばん背が高いですか。

A : 兄が いちばん背が高いです。190cmあります。

B : おおきいですね。

A : みずきさんの 友達で だれが いちばん背が高いですか。

B : アンリさん が いちばん背が高いです。

A : わたし 170cm あるから。

B : うん。かっこいい。背が高いと、なにを着てもいい。

A : 日本の 女の子も背が高い人 多い？

B : ううん。まだ170cmの人は、少ない。

A : みずきさんは バスケットと 野球は どちらが 好きですか。

B : 野球です。日本では あまりバスケットの試合がないです。

A : プロチームはありますか。

B : いいえ、ないです。

A : しらなかった。アメリカは プロのバスケットチームがあります。

背^せの^{たか}高い^{ひと}人は、バスケットが^す好きです。

B：アンリさんも バスケットの^{ほう}方が ^す好きですか。

A：はい。^す好きです。

中^{ちゅう}学^{がく}生^{せい}の ^{せん}ときは ^{しゅ}選手^{しゅ}でした。

B：すごいですね。

(以上、20課終了)

[表 10]

授業に対する質問票^{しゅつもんひょう}

学生氏名：

日本語^{がくしゅう}学^{れき}習^き歴^{れき}： 年 月

1. 今日の授業で「たいせつな^{こうもく}項目」は何ですか？
2. 今日の授業の中でわからなかった^{ぶんけい}文^{ぶん}型^{けい}、表^{ひょう}現^{げん}は何ですか？
3. 今日の授業の^{ぶんけい}文^{ぶん}型^{けい}、表^{ひょう}現^{げん}の中で、^{じつさい}実^{じつ}際^{さい}に^え使^ええ^ると思^{おも}ったのはどれですか？
4. 今日の授業の文型、表現はすでに^{なら}習^{なら}っていましたか？
5. 今日の授業の中で「今までわからなかったところが、よくわかるようになったところ」はどれですか？
6. 今日の授業は分かりやすかったですか？^{かんざう}感^{かん}想^{ざう}を聞^きかせてください。

* 記入^{きにゅう}協^{きょう}力^{りき}ありがとうございました。「授業^{かいてん}改^{かい}善^{ぜん}」のためのみに使用^{しよう}させていただきます。
(奈良産業大学 国際交流センター)

[表 12]

授業日誌 (担当教員による報告書)	
2009 年 月 日	
第 回 担当教員氏名：	
1. 今日の授業で「最も重要な項目」は何ですか？ 2. 今日の授業の前に特に準備したことはなにですか？ 3. 今日の授業中、工夫したことは何ですか？ 4. 受講生が「漢字言語圏」の人々の場合、どういう工夫をしましたか？また、どういう教授法が効果的だと感じましたか？ 5. 全般的所見 教材、教具の適正は？ 学生の学習態度は？ 学生の理解度は？ その他特記事項 6. 自己点検、自己評価 どういう点が良かったですか？ どういう点に改善の余地がありますか？	
ご記入ご協力ありがとうございました。「教授法」改善のためのみに使用させて戴きます。(奈良産業大学 国際交流センター)	

[付記]

本稿は、「第1回中日韓朝言語文化比較研究・国際シンポジウム」(於：延辺大学外国語学院, 2009.8.22.)にて筆者が報告した骨子をまとめたものである。

短期留学生に日本語教育のカリキュラムを提供するに当たり、斬新な内容を設定しようと試みる。当初、各回ごとの「達成目標」「内容構成」などを示し、全30回(日本の大学では、通常科目の場合、前期15回、後期15回の通年30回講義が行われる。外国語科目の場合、通年この倍の計60回となる)のごく簡単なシラバスを日本語教育の専門家4名(竹田治美本学専任講師、中川婦美子本学非常勤講師、田中舞本学非常勤講師、上野山愛弥独立法人日本学生支援機構大阪日本語教育センター講師)の方々に作成依頼した。4名の専門家は、各々、基底となる学問系統・テキストが異なり、体系の立て方にも特徴があった。この中で田中舞本学非常勤講師のシラバスが筆者の構想と最も合致したので、種々の資料等を参照する。ここに謝意を表す。

筆者は、2008年8月「第5回中日韓日本語教育研究フォーラム」(於：大連外国語大学)に参加したさい、高見澤孟2008「コミュニケーション能力育成のための教師の役割の研究」は、「Audio-lingual Approachはもはや古く、現在ではCommunicative Approachが効果的」と発表されたのを聞き、その方面の研究を少しずつ重ねてきた。そして、ついに、CEF、日本語Can-do-statementsにたどり着いたのである。

2009年3月、屏東科技大学の短期留学生受け入れを正式に決定してからは、「格好の実験」と考えていた。ところ

が、5月中旬、新型インフルエンザ発症患者が神戸、大阪で出現した結果、屏東科技大学側が本学への留学派遣を急きょ中止も検討されたが、最終的には来日となる。しかし、彼らの研修日程と今回のシンポジウム（「第1回中日韓朝言語文化比較研究・国際シンポジウム」於：延辺大学外国語学院，2009.8.22.）の参加日程とが一部重なった。したがって、「効果的な教材、質問票、本学版日本語Can-do-statements」等は完全に準備できていたが、肝心の実験の方は完全にはできていない状態にある。

このため、この誌上で公表したのは、我々の準備した教材、教具にすぎず、当然ながら実験結果のデータはまだ整理することができていない。

[注]

- 1)英語版「European Language Portfolio」を日本語に訳したものが吉島茂、大橋理枝2004で、これをもとに日本語教育に応用した代表的なものが小木曾左枝子2005及び島田めぐみ他2007である。
- 2)田中和美、吉岡慶子2005,p.39
- 3)吉島茂・大橋理枝（訳・編）2004,p.25
- 4)この表は、小木曾左枝子2005及び島田めぐみ他2007を参照にして作成する。
- 5)この「講義課題」は、国際交流基金・日本語国際センター2006のテキストをもとに田中舞本学非常勤講師が原案を作成。筆者が修正を加える。また、この講義課題に沿って筆者は、『[試稿本] できる日本語』（日本語講座初級テキスト）を編纂。今回、各日本語担当教員はこれを使用している。
- 6)田中舞本学非常勤講師の提案。
- 7)田中舞本学非常勤講師の提案。

[参考文献]

- ヨーロッパ日本語教師会、独立行政法人国際交流基金（著作・編集）,2005,『日本語教育国別事情調査 ユーロッパにおける日本語教育とCommon European Framework of Reference for Languages』,独立行政法人国際交流基金 発行。
- 田中和美、吉岡慶子,2005,「ヨーロッパ言語共通参照枠組み（CEF）の最近の動向」,『日本語教育国別事情調査』第1章所収。
- 小木曾左枝子,2005,「ヨーロッパ言語ポートフォリオ(European Language Portfolio:ELP)」『日本語教育国別事情調査』第1章所収。
- 吉島茂、大橋理枝（訳・編）,2004,『外国語教育Ⅱ——外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』,朝日出版社。
- 三枝令子,2004,「日本語Can-do-statements尺度の開発」,『日本語Can-do-statements尺度の開発』研究成果報告書（平成13年度～平成15年度科学研究費補助金・基盤研究B1・課題番号13480068,研究代表者三枝令子）所収。
- 島田めぐみ、谷部弘子、斎藤純男,2007,「日本語科目における言語行動目標の設定——Can-do-statementsを利用して——」,『東京学芸大学紀要・総合教育科学系』第58集（pp.495～505）,東京学芸大学 発行。
- 島田めぐみ、三枝令子、野口裕之,2006,「日本語Can-do-statementsを利用した言語行動記述の試み——日本語能力試験受験者を対象として——」,日本語教育論集『世界の日本語教育』第16号,凡人社。
- 高見澤孟2008,「コミュニケーション能力育成のための教師の役割の研究」,第5回中日韓日本語教育研究フォーラ

ム（遼寧省・大連外国語大学）。

国際交流基金・日本語教育センター2006,『DVDで学ぶ日本語 エリンが挑戦 にほんごできます』(vol.1～vol.3),凡人社。

文化外国語専門学校2008,『新文化初級日本語Ⅰ』,凡人社。

文化外国語専門学校2008,『新文化初級日本語Ⅱ』,凡人社。

岡本輝彦他2002,『初級 語学留学生のための日本語(Ⅰ)』,凡人社。

岡本輝彦他2002,『初級 語学留学生のための日本語(Ⅱ)』,凡人社。

スリーエーネットワーク(田中よね他)1998,『みんなの日本語(初級Ⅰ本冊)』,スリーエーネットワーク。

スリーエーネットワーク(田中よね他)1998,『みんなの日本語(初級Ⅱ本冊)』,スリーエーネットワーク。

河野美抄子、佐治圭三、中川良雄,2004,『日本語教授法(改訂新版/日本語教師養成講座テキスト⑤)』,ヒューマンアカデミー。

植田均2009,『[試稿本] できる日本語』(日本語講座 初級テキスト), 奈良産業大学国際交流センター。

European Language Portfolio Biography Progress and Achievement Pages (CILT,the National Centre for Languages 2008)
http://www.cilt.org.uk/qualifications/elp/downloads/adult_elp_rarpa_sheets_progress_achievement_final.pdf